

母校の近況報告

最近の進路状況

進路課長 土井 正純

一旦社会に出てから学び直すなど、多様な進路をたどる人が増えている。と同時に、従来の枠組みにとらわれず、長期的な視野で進路選択する時代になりつつある。また、少子化の影響で大学は全入時代に突入すると言われているが、就職難や厳選採用の流れによって、大学卒業後の道は平坦ではない。本校生も「どういう生き方をしていくのか」がこれからますます問われていくことになる。そこで、本校を取り巻く環境の変化、実績などを、進路的な側面から報告致します。

○一 完全週五日制に伴い、土曜補講開始（授業時数減を補う）

新入生ガイダンス実施（予習・授業・復習の大切を知る）

○二 大学模範講義（二年対象）実施

○三 新教育課程生入学（中学の学習内容の三割が削減され、高校へ移行）

新入生宿泊研修実施

S（選抜）クラス発足

○四 職業講話（一年対象）実施

学力向上プロジェクト事業実施

○五 多くの国立大が五教科七科目実施

国立大学独立行政法人化

全教室にエアコン設置

○六 英語リスニングテスト実施

さて、国公立大学の合格者数は、昨年一五六名（八クラス）の最高値）を、昨年一五六名（七クラス）、合格率五九・五％。

特に、旧帝大の合格率も六〇％（東大一名京大四名）と好調であった。ここ数年の布石が功を奏したのではないかと、また、生徒一人一人が最後まであきらめずにがんばり抜いたことと、学年主任、担任をはじめとする学年部が「受験は団体戦である」という体制作りを意識し、生徒にもそれがよく伝わったためである。あらゆる場面で個が活かされていたとも言えよう。

これからの、「大変だったけど、がんばって良かった」という経験を何度も積み、どんな局面でもくじけないたくましさや身につけていってほしいと願う。そして、自分の能力が最大限発揮できる進路を見つけ、それに向かって邁進し続けてほしい。



（野球応援風景）

山岳部、輝く県総体三連覇 卓球部も全国へ

今年度のインターハイでも、多くの部が活躍した。中でも特筆すべきは、5月末の県大会で見事に三年連続で優勝し、全国大会出場を果たした山岳部である。二位の富士宮西高に合計得点で並ばれるも、審査項目「体力点」で上回り優勝を決めた点に、去年までの経験と日頃の鍛錬の成果があらわれたといえよう。

また卓球部個人戦でも、26日R磯部大昭君が並ぶ強豪を次々と倒し、県大会ベスト4の成績を収め、全国大会出場を得た。本人の努力もさることながら、壮行会で彼自身が語ったように、共に高めあい励ましあう部の仲間あつての快挙であろう。

さらに、全国大会には及ばなかったものの、水球部が県大会二位となり創部以来初の東海大会出場を果たした。

県大会に進出した部は、陸上（8種目）、男子バスケ、男子バレー、女子バレー、男子バドミントン（個人）、女子バドミントン（団体）、男女テニス（個人）、卓球（男子団体）、剣道（個人）、弓道（男子団体、男女個人）など多岐にわたる。文化部でも棋道、放送が県大会に進み、音楽、演劇なども公演で大いに力を発揮した。

いずれの部においても文武両道の名に恥じない成果をあげ、今後もさらなる活躍が期待できよう。

サッカー部

監督 服部 康雄

体育大会を間近に控え、グラウンドでは伝統ある高校生体操、柔道体操に熱心に取り組む生徒の姿が見受けられます。同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。4月に19名の新生を迎え、合計64名の大所帯としてスタートをきりました。東海プリンスリーグでは主力のケガやゲームを支配しつつも勝ちきれない弱さを露呈し連敗。とにかく顔を上げ前向きにと激励しながら、若いフレッシュな力を登用し流れを変えようと試みるが、結局狂った歯車を元に戻すことが出来ず開幕4連敗と最悪のスタートとなってしまいました。続くインターハイも2回戦で昨年選手権決勝を戦った常葉橋。一進一退のゲーム。PK戦で2度の勝機を逃し10人目で敗退。昨年度までの財産を全て失った感がありました。上級生に全国経験者がいるにもかかわらず、その経験を生かしきれない歯がゆさ……。残す大会は選手権のみであります。この夏は例年以上に遠征・合宿を実施しました。ひと回り大きくなったチームをぜひ皆様に応援していただき、一戦一戦挑戦者の姿勢を忘れずチーム一丸となり戦う決意であります。そして国立で現役、OBが一体となり肩を組む「あぁ東海の空遠く…」の校歌を歌うことを目標に、今後とも精進していきたいと思っております。

全国高校総体 戦績報告

山岳部

山岳部顧問 松田 望

今年の夏山合宿は、荒川三山、赤石、聖上河内岳を五泊六日で縦走する充実した山行になりました。県三連覇を達成した過程で培われた体力、技術、精神力があつたからこそ立案し、踏破できたのだと思います。

全国大会の結果は十二位、上位入賞をめざして鍛錬してただけに、生徒達はくやししい思いが当然あるでしょう。しかし、常に昨年度全国優勝校という目で周囲から見られる中、辛抱強くよくやっただけはほめてやりたいと思います。部誌に記された三年生の言葉にも、インターハイまでの道のりがいかに険しかったか、伺えます。

◆県予選直前、チーフリーダー

この二ヶ月間を僕なりに全力でやってきました。毎週山に行ってきた。山で苦しんできた。山を楽しんできた。高校に入学して二年二ヶ月、色々な経験してきた。色々な思いがたまっていく。最後の仕上げとして県大会に臨む。過信はしてはならないが、勝つ。

◆全国大会直後、サブリーダー

僕の高校時代山岳部と表わされるぐらい山岳部での思い出、経験が深い。大学に入ってから登山を続けるかどうかはわからない。でもいつか、山に帰ってくるのがきつとあるだろう。

卓球部

部長 二年 磯部 文昭

インターハイ中部地区予選では順調に勝ち進み、ベスト8に入ることができました。そのときはまだ全国のことなどは頭にありませんでした。県では勝っていく自信がなくベスト32に入れたらいいなあと思っていました。とにかく県大会前は体調に気をつけるようにしていました。

県大会当日は緊張したけれどもいつも通りの試合ができ、普段よりも集中できました。運も味方してくれたように思います。

全国大会は初めてのことでとてもいい経験になりました。会場では観客の数が座席数よりはるかに多く驚きました。こんなところで試合をすると思うととても緊張しました。初戦は島根の4位でした。全国大会では弱い選手は1人もいないので気が抜けませんでした。1セット目は何も動けずにあっさりとり取られました。2セット目は相手のミスがあつたけれども9-11で取られそのまますセット目も取られ0-3で敗れるという結果で終わりました。自分の力が十分に発揮できず悔しい思いをしました。そして応援してくれた人達に本当に申し訳なく思いました。

強い選手達のプレーを見ていい勉強になりました。そしてまた全国大会に出場したいと思えました。応援ありがとうございます。

支部活動報告

関東地区

久永 正夫 (28回)

今年度は関東地区同窓会の開催予定はない。従って、同窓会としての顕著な活動は特になが、お正月のサッカー選手権の際には各試合とも寒さの中をかかひの数の関東同窓会が応援に駆けつけ、母校の試合の成り行きに一喜一憂した。また、ゴールデンウィーク中の母校野球部の関東遠征の際にも昨年同様十数名の有志が応援に行き、試合を観戦して部員を激励した。今回の関東地区同窓会は来年七月九日の日曜日に、昨年同様高輪プリンスホテルで開催する。従来、七月の第二土曜日に開催していたが、日曜開催の希望もあるので、今回は試みに日曜日に開催する。時間も従来と変えて12時30分〜15時とする。昨年の「千原原」にも記したが、今回の開催通知は前回開催通知に返信のあつた会員のみ送付する予定である。前回返信しなかったが次回出席を希望する会員は事務局（38回生、築瀬治子さん、〒245-1001横浜市区泉和泉町502-110、TEL045-8001-5317）まで連絡して頂きたい。なお、前回の返信葉書を基に築瀬さんが関東地区同窓会員名簿を修正し、本部へも資料として送付した。

●中京支部（藤愛会）

鈴木 秀明 (28回)

昭和60年頃、31年卒の横山さんの音頭による会合がやがて「藤愛会」と命名されて毎年行なわれ、平成10年の13回目で開催された。平成12年より隔年開催の中京支部総会となり、初代支部長に31年卒の杉原さん、平成14年に31年卒の筆者（鈴木）が会長に就任して現在に至っております。尚、「藤愛会」は藤高を愛する会、「藤高・愛知の会」に通じ現在でも総会の愛称として使っております。中京支部会員は、愛知、岐阜、三重の三県に在住の同窓生で、幹事役を横山さんから引き継いだ33年卒の久保田さんが苦勞して作成した327名の会員名簿を基に総会出席の呼びかけや寄付金依頼等を行なっております。総会は、2000年8月（29名）、2002年7月（30名）、2004年8月（31名）の3回行なわれ、昨年は本部から横田会長をお招きして本部との連携強化を図っております。総会の運営を支える分科会として毎月、31年卒を中心に「中ばし会」を開催し、不定期にゴルフ会、開基会、海外旅行会（過去3回）を開催して会員の親睦を図っております。中京支部会員の皆様の来年8月予定の総会へのご出席をお待ちしております。

●焼津支部

この度、左記の通り支部会を開催することと致しました。同窓生お誘いの上、是非ご出席下さい。日頃近くにもなかなか会う機会のないこの頃ですが、旧交を温めてみませんか。

* 一八年四月二十三日（日）午前十一時

「ホテルアンビシア松風園」

連絡先「丸石樹」054-662-1211 大石

（皆様には、詳細は別途連絡を致します。）

浜松支部

大塚 義郎 (34回)

今秋で藤遠会（とうとおかい）藤枝東高校・遠江地区同窓会の会合は第三十二回目を迎えます。今年度は十月十日（月）十九日より名鉄ホテルを会場として開催致します。藤遠会は昨年九月の会合で「浜松支部」として承認されました。しかし、今後も藤遠会の愛称が受け継がれていくことと思っております。浜松支部は掛川以西の県内在住者、または遠江に縁りのある有志者を以つて年一回の親睦の場を設けています。同窓生、同世代のお付き合いだけでなく、世代を越えた先輩後輩が縦のお付き合い、交流の場として大勢の方々にお誘い合わせのうえ気軽にご出席をお願いしたいと思います。この同窓会報を御覧になって興味を持たれた方は左記宛に「一報ください。西遠製菓（株）」

053-542-0301 大塚

●金谷・三川根支部

高木孝祐 (35回)

当支部は、昨年の支部編成替えに伴い新たに発足し、昨年度は、手初めに支部内に在住している同窓生の名簿をつくり配付し、同窓生相互の連絡・連帯に役立つ事を主眼とした支部活動を行った。

現在の活動としては全体会（呼称未定）の開催（平成十八年度以降）に向けて中広い年令層への呼び掛け等の地道な活動を主に行うと共に本部と連絡を計り回別役員強化に協力していく所存です。

●一言 庸夫

●41回生

第三十四回生学年会開催される。平成十七年八月十四日、第四回学年会が藤枝エミナースを会場に開かれた。お盆の真最中の何かと繁忙な時にもかかわらず、七十名余の多数の参加者で賑わった。恩師の鶴殿和産先生、松村八十治先生をお迎えし、両師の近況報告を交えた楽しいご挨拶に、会場の雰囲気は高まった。同生動物故郷の冥福を祈つて黙齋を捧げた後、一回再会の喜びを爆発させるかのように乾杯し開宴。おいしい酒を飲みながら、大いに話が花が咲いた。まもなく、なつかしい高校生活の様子が放映されると歓声が上ががり、続いて数人が高校時代の思い出を披露する頃には、会場は興奮のつぼと化し、歌なども次々に飛び出した。最後は、校歌応援歌を高らかに斉唱し、参加者全員友情を一つつ会場を後にした。

同期会報告

34回生

川西 肇

第41回卒業生の同期会が昨年11月27日、島田の大井神社、宮美殿で開かれた。卒業後36年を経て、故郷での同期会も3回目。今回の発起人は鈴木國近君と松永哲雄君。ともに、以前御息が東高に在学した際、PTA会長の大役を務め、その縁もあって同じ41回生で現在、東高で教鞭をとっている3人の先生方も加わっての強力布陣！準備は万端で、出席者名簿が受け付けに用意されていたので、「あつ、あつが来ていいる」「あの人とは卒業以来だなあ」と、互いに席を立つては旧交を温め合うことができた。途中、一人一人が舞台上に立つて近況報告もし、青春時代と同じテニションで元気いっぱい挨拶をした同期生は、会場からヤンヤの大喝采を浴びていた。また、前日、焼津文化センターで行なわれた「藤枝東高80周年記念式典」の報告もあり、一同で母校の益々の発展を祈った。この日は各クラスの幹事も決まり、次回は4年後「還暦を目前に再会」を誓い合い散会となった。

平成16年度 決算報告

収入総額 21,801,730円
支出総額 2,896,827円
差引金額 18,904,903円

収入の部				△は減	単位：円
科目	16年度予算額	16年度決算額	増減	摘要	
繰越金	18,734,697	18,734,697	0		
会費	2,840,000	2,790,000	△50,000	10,000円×卒業生279名	
雑収入	303	277,033	△276,730	預金利息等	
合計	21,575,000	21,801,730	226,730		

支出の部				増減	摘要
科目	16年度予算額	16年度決算額	増減	摘要	
会議費	400,000	438,071	38,071	本部役員会、総会、委員会	
事務費	630,000	410,890	△219,110		
事務局費	50,000	0	△50,000		
旅費	100,000	79,000	△21,000	各種会合への旅費	
印刷費	30,000	14,700	△15,300	封筒	
通信費	100,000	67,190	△32,810	切手、往復葉書	
備品費	300,000	250,000	△50,000	事務用机等	
消耗品費	50,000	0	△50,000		
事業費	2,740,000	1,867,866	△872,134		
記念品費	100,000	67,980	△32,020	卒業証書筒	
旅費	300,000	136,168	△163,832	祝電、弔電、送別	
会館補助費	100,000	100,000	0	同窓会館維持費	
会館整備費	200,000	0	△200,000		
会報発行費	300,000	0	△300,000		
保険料	70,000	57,820	△12,180	会館火災保険	
渉外費	150,000	45,439	△104,561	支部への祝儀等	
80周年記念事業支援	1,100,000	1,121,489	21,489	80周年記念事業支援	
特別会計補助金	320,000	320,000	0		
雑費	100,000	18,970	△81,030	アルバム、ホームページ維持費	
予備費	17,805,000	180,000	△17,625,000	貸し金庫、総務優待金	
合計	21,575,000	2,896,827	△18,678,173		